



高松琴平電気鉄道（株）
代表取締役社長 真鍋 康正氏

ことでは2016年から、仏生山駅のホームに「ことでん電車図書室」という小さな本棚があります。そこにある本を読んででもいいし、気に入ったら隅の穴にお金を入れて、購入してもかまいません。駅周辺の人たちと一緒にすすめてきたプロジェクトです。本と電車。これほど相性のいい組み合わせもないでしょう。このたび新しく「ことひらまちじゅう図書館」をことでん琴平駅に開設して、町のみなさんの本を読みたい／読んでほしいというご期待に少しでも応えられるなら、当社のことちゃんも小躍りして喜ぶと思います。琴平町で本がつくる幸せな関係づくりをこれからも応援してまいります。



琴平町を「本のテーマパーク」に
香川県立琴平高等学校長

志賀 紀之氏

ことひらまちじゅう図書館の代表嶋田貴子さんとの出会いは、昨年度12月に本校で行った“琴平魅力 up ワークショップ”でした。初めは「まち図書ってなに？」と思いましたが、活動をお聞きしているうちに、この素晴らしい取り組みに琴平生も参加させたいと考えお願いと、二つ返事で了解いただきました。本校の総合的な探求の時間「琴平道」で‘まち図書’の方々と本校生が協力し、収集する本のコンセプトや本棚のペイント等を行い、12月21日に「旅する図書館・琴電琴平駅」として24番目の本棚の設置にかかわらせていただきました。この‘まち図書’をテーマとした探究活動は深く面白いもので、今後いろいろな方向に広がる可能性があるため、来年度以降も継続していきたいと考えています。これからも‘まち図書’の輪がさらに広がり、琴平町全体が「本のテーマパーク」として発展されることを望むとともに、その活動に琴平高校が少しでもお役に立てれば幸いです。



琴平町副町長
谷口 信平氏

「住民自治」という言葉があります。みんなで自分たちの地域のためのおこないをしていこうということです。対義語「団体自治」と一緒に考えればわかりやすい。役場という団体に職員を雇い、地域のためにがんばってもらう。これが「団体自治」。みんなのための道路を作るのも、小学校を運営するのも、みんな「団体自治」。現代社会では「団体自治」が中心です。でも、はたしてそれでいいのか？役場に任せれば任せただけ、お金がかかる。税金が上がる。でも、税金で何をしているかってわかりづらい。どんどん、自分ごとじゃなくなっていく。まちじゅう図書館の取組は、まさに、「住民自治」の最たる例です。自分たちのまちは自分たちでつくる。できることは自分たちです。まったくもって素晴らしい取組です。

利用者からの応援メッセージ

三宅 春馬さん（琴平町）



ぼくは、ことひらにおいてあるほんのとびらをあけるのがすきです。なかにどんなほんがあるかなあと、おかあさんとあけてよんでいます。ほんをおいてあるひともこえをかけてくれます。もっと、とびらをあけるところがふえたらうれしいな。



竹内 絢哉さん（琴平町）

僕は小学生の時にお母さんと一緒にまちじゅう図書館へ行き、いろんな所でいろんな本が読めました。



竹内 有希さん（琴平町）

ことひらまちじゅう図書館が出来て、小学生だった長男の為に色々な場所でも沢山の本を読む事が出来ました。もっとたくさんの子たちに気軽に立ち寄ってもらいたいです。

郷土資料寄贈者からのメッセージ



守家 厚生さん（琴平町）

家の本棚で大切にしていた本ですが、まちじゅう図書館で多くの方々に読んで頂けたら嬉しく思います。

北山 圭子さん（琴平町）

整理をしていて郷土の本がみつきり寄贈しました。昔話など町の子どものための郷土愛を育むことに繋がればと思います。



善意の寄付

○ 真鍋 康正様より 50,000円

皆様からの善意の寄付はことひらまちじゅう図書館の活動に有効に活用させていただきます。厚く御礼申し上げます。

編集後記

活動が始まって3年が経ち、町の方々との繋がりが嬉しいです。健康寿命を延ばすには「運動よりも食事よりも読書が大事」という驚きの結果をAIが分析し話題となりました。琴平町内に生まれた25か所の図書館（居場所）を散歩しながら本と人に出会う面白さを見つけられるなんて、小さな町だからできますね。人との繋がりに郷土について知ったり、元気も生まれます。まちじゅうに本がある町へ♪

ことひらまちじゅう図書館代表 嶋田 貴子

参加館・サポーター募集中 お問い合わせ



ことひらまちじゅう図書館事務局
〒766-0004

香川県琴平町榎井 891-1
琴平町地域福祉ステーション内
TEL 0877-75-1371

<https://kotohira-machitosho.com>

ことひらまちじゅう図書館

検索

